



Title	ガーナにおけるろう児の早期ケア・教育
Author(s)	スワンウィック, ルース; フォビ, ダニエル; ドク, リチャード
Citation	母語・継承語・バイリンガル教育 (MHB) 研究. 2024, 20, p. 1-19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/102041
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

《基調講演録》

ガーナにおけるろう児の早期ケア・教育

Ruth Swanwick (University of Leeds, UK),

Daniel Fobi (University of Education, Winneba, Ghana),

Richard Doku (Ghana National Association of the Deaf)

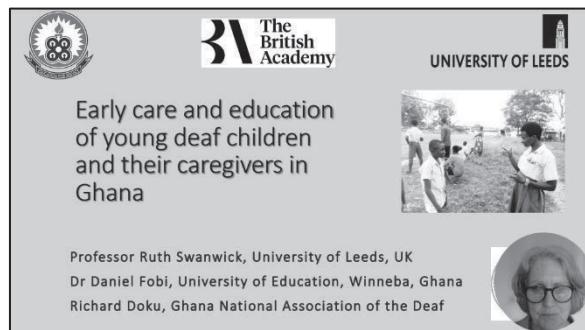
Early Care and Education of Young Deaf Children in Ghana

Ruth Swanwick (University of Leeds, UK),

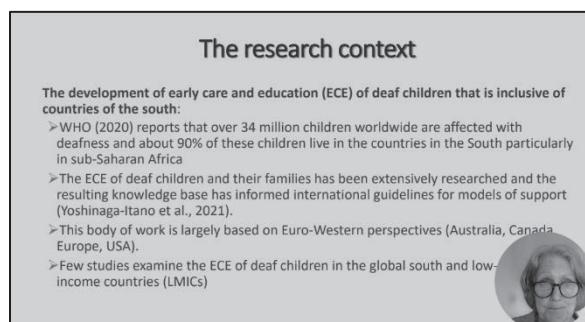
Daniel Fobi (University of Education, Winneba, Ghana),

Richard Doku (Ghana National Association of the Deaf)

1. 研究の背景とプロジェクトの現在までの総括



ろう者協会のリチャード・ドクさんと一緒に発表します。このプロジェクトは、イギリスとガーナの協働プロジェクトで、ろう児とその養育者の早期教育とケアについて検討するものです。このプロジェクトは、英国アカデミーの幼児教育プログラム（ECE プログラム）がグローバル・チャレンジ・プログラムの研究資金から支援しています。本日の講演では、まず私が研究プロジェクトの背景について、またプロジェクトの目的や方法をざっと説明し、これまでにわかつてきしたことについてまとめます。その後、私の同僚であるダニエル・フォビ先生とリチャード・ドクさんに引き継ぎます。彼らには研究に関することや家族や実践者への介入におけるろう者の指導的役割を中心に話してもらう予定です。



それでは、私たちの研究の背景、幼児期のケアと教育の背景について少しお話ししましょう。世界保健機関（WHO）の報告によると、聴覚障害を持つ子どもは世界で 3400 万人以上おり、そのうちの 90% は南半球、とくにサブサハラアフリカの国々に住んでいます。今やろう児とその家族に対する幼児教育に関する研究

はかなり蓄積されており、その結果得られた知見は多くの国際的なガイドラインや支援モデルに反映されていますが、この一連の研究は、主にオーストラリア、カナダ、ヨーロッパ、アメリカといった欧米の視点に基づいていると言わなければなりません。グローバル・サウスやその他の低・中所得国におけるろう児の幼児教育について検討した研究は非常に限られているのが現状です。ですから、私たちの研究の背景はまさに、グローバル・サウスにおける幼少期、子育て、生活の文脈における幼児教育研究のこのギャップにあるのです。そして、幼児教育研究は、聴覚障害と手話使用に対する権利の概念に基づく理解という方向に向かってはいますが、それが世界的に共有されたパラダイムであるとは言えないのが現状です。また、ろう児の家族というコンテクストにおけるECEに関する知見は北から南への一方通行になりがちで、南の国についての研究はあっても、南の国から何を学ぶことができるのか、という点についてはほとんど注意が向けられないという傾向があります。

The research drivers

We identified the need for:-

- Quality early care and education, that helps young deaf children in LMICs progress through early childhood developmentally 'on track'
- Early educational programming that is sensitive to contextual understandings of deafness, and the established proximal and external resources around children, their caregivers and communities.
- Strategies that support innovation in early years policy and practice: identify what works and what can be replicated across different urban and rural contexts.

Priorities that align with the SDG 4 to 'Ensure inclusive and equitable quality and promote lifelong learning opportunities for all'.



つまり、私たちの活動は、ろう児とその養育者のECEが、子どもや家族を取り巻くリソース、健康や教育のインフラ、聴覚障害や手話に関する社会的言語意識と課題において、満たされていないニーズがあるという状況で行われているのです。この状況において、私たちはこのプロジェクトを推進するためにいくつかのニーズを特定しました。1つ目は、ガーナやその他

の低・中所得国においては、ろう児が幼児期にあるべき発達段階を超えていくことができるよう、質の高い早期ケアと教育が必要であるということです。もうひとつは、このコンテクストにおける聴覚障害及び子どもや養育者、そのコミュニティを取り巻く近接・外部リソースについて意識的でありかつ配慮に富んだ早期教育プログラムの必要性です。3つ目は、早期教育政策とその実践におけるイノベーションを支援する戦略の必要性であり、また、同時に、現在有効とされているのは何か、都市や地方の異なる状況下で同じように実践できることは何なのかを特定することです。ですから、私たちの活動は、持続可能な開発目標4、「すべての人に包括的で公正な質の高い教育を確保する」という目標と非常に合致するものです。その意味で、私たちのプロジェクトの目的は、幼児教育への影響を調査し、ガーナのろう児が言語、コミュニケーション、学習および心理社会的ウェルビーイングの面で幼児期の発達を順調に進めることができるように、ガーナという場にあった形の質の高い早期支援を改善する機会を見出すことがあります。

The project team



では、私たちのプロジェクトチームをご紹介しましょう。私たちは北と南の共同研究チームであり、新しい多世代研究チームなのです。この研究はイギリスの研究機関が主導しており、私はリーズ大学の研究責任者です。私は、ウィネバ教育大学のYaw Offei博士とAlexander Oppong博士の2人のガーナ人共同研究者とともに研究を行っています。また、本日ご登壇いたただくプロジェクトオフィサーのダニエル・フォビ先生とも連携しています。彼は専門資格を持つガーナ

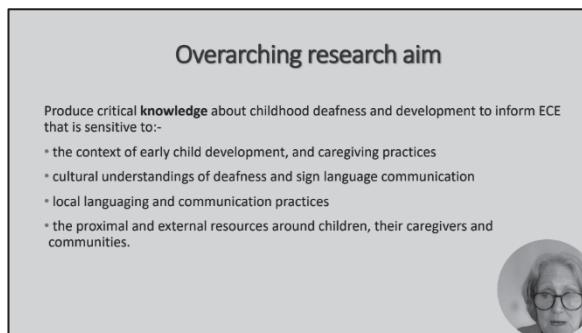
ナ手話の通訳者であると同時に、教育学の講師であり、研究者でもあります。このプロジェクトでは、2人のガーナ人リサーチ・アシスタントが働いています。2人とも聴覚障害児教育の資格とガーナ手話通訳者の資格を持っています。ジョイス・フォビさんとオベッド・アパウさんです。また、大学やガーナろう者協会の3人のろう者指導者とも協力しています。そのうちの一人が、今日お話してくれるリチャード・ドクさんで、他に、ビデオでご覧いただけけるリンダ・ギバさんとデリック・アソマニングさんが我々のチームにはいます。



さて、本日のプレゼンチームです。もう私のことはご存じだと思いますが、リチャード・ドクさんとダニエル・フォビ先生と一緒に発表をします。私はリーズ大学のろう教育学の教授で、ろう教育学を教え、研究しています。私の専門は、小児聴覚障害と発達、特に言語発達と学習です。ろう児のためのバイリンガル教育やインクルーシブ教育、そして教師教育にも興味があります。

ダニエル・フォビ先生は、ろう教育とインクルーシブ教育の講師を務めています。手話通訳者でもあり、ウィネバの教育大学で大学院プログラムのコーディネーターを務めています。リチャード・ドクさんは、ウィネバ教育大学の特別教育士の資格を持ち、ろう児の数学教師であり、ガーナ国立ろう者協会の手話プロジェクト担当者でもあります。

では、私たちはこの研究プロジェクトで何をしようとしたのでしょうか。大きな研究目的としては、



幼児期の聴覚障害と発達に関する重要な知見を生み出し、それらを多くのことに配慮した幼児教育に反映させることでした。まず、早期発達と養育の実践の背景です。私たちは、特定のコンテクストにおける養育者の経験に配慮した知見を生み出したいと考えました。このコンテクストにおいて、ろう児を養育するということは家族にとってどんな意味を持つのか、彼らの養

育の実践はどのようなものなのか。私たちは、聴覚障害と手話コミュニケーションに対する異なる文化的理解に配慮した知見を得たいと考えていました。ろう児の早期教育における手話とろう者の役割について、ガーナの人々はどのような態度やビリーフを持っているのかを尋ねました。また、現地のランゲージングやコミュニケーションの実践に関する知識の蓄積も行いたいと考えました。ガーナは非常に多言語の国で、子どもたちも家族も皆、日常生活で複数の言語を使っています。私たちは、幼児教育研究に、異なる言語が異なる地域の文脈でどのように使用されているか、そしてそれがコミュニケーションやランゲージングの実践における意思決定にとってどのような意味を持つかについて理解したかったです。また、家庭内や家庭外、地域社会で利用可能なリソースや、子どもとその家族を支援するためにすでに利用可能なものについて、理解を深めるための知識を生み出したいと考えたのです。

Project objectives - steps taken

- Critique current models of early support (local infrastructure, knowledge, practices)
- Identify the interconnecting systems of influences on early support in situ
- Describe the resources as well as precarities (caregiving, communication, support)
- Mobilise and connect multi-professional, deaf and hearing expertise
- Implement sustainable change and innovation in early years policy and practice
- Plan for capacity development (professional, research, leadership, scholarship)



そこで私たちは、この目的を達成するために必要だと思われるいくつかのステップを特定しました。その第一は、現在の早期支援のモデルや、地域のインフラ、地域や先住民の持っている知識、実践といった地域の違いをどのように受け入れているか、という点について批判的に読み解くことでした。第二に、このような状況において早期支援に影響を及ぼす、相互に関連するシステムを検証したいと考えました。つまり、身近な影響、子どもや家族を取り巻く影響、そして早期支援に関わるより広い外部のマクロ的な影響ということです。私たちは、この研究を可能な限りアサーティブなものにすることが重要であると考えました。そのため、私たちは、子どもや家族の内部やそれを取り巻くリソースを特定して、説明することに集中しました。また、養育やコミュニケーションの成功、支援における不安定さやリスクについても説明しました。

もうひとつの重要な目的は、研究とその普及のために複数の専門家からなるチームを動員すること、とりわけ専門性を持つろうの専門家をプロジェクトに呼び込むことでした。このプロジェクトの将来にわたる目的は、持続可能な変化をもたらし、このコンテクストにおけるイノベーションを展開することです。その一環として、私たちは、幼児教育、この分野の研究とリーダーシップ、この分野の学問、そしてこのプロジェクトの期間を超えて持続する専門知識を持つ専門家としての能力を開発するための方法を、最初の段階で計画しました。

Participants and contexts

Participant contexts: Rural (Savelugu) and urban (Mampong and Jaman), including Kukobilla, Pigu, Kadia, Pusiga, Diare, Pong-Tamale

Participants	No.	Gender	deaf/hearing
Teachers	15	4M/ 11 F	3d/ 12h
Clinicians	9	9M	9h
Caregivers	12	3M/ 9F	12h
Deaf advisors	17	13M/4F	17d




これらの目的を達成するために、ろう児とその家族のための早期ケアとサポートのエコロジーに関わるさまざまな関係者と連携しました。私たちは4つの異なるグループの参加者に焦点を当て、ガーナの農村部と都市部にわたって活動しました。ろう教育の教師や、臨床医、つまりろう者の子どもやその家族が子どもの診断を受けてすぐに接することになる言語聴覚士

とも一緒にプロジェクトを進めました。両親、祖父母、そして全寮制のろう学校の教員たちとも連携しました。彼らは、学校の授業時間外にろう児と多くの時間を過ごしています。また、大学やガーナの支援団体のろうアドバイザーとも協力しました。

Data gathering

- Review of current policy and practice
- Interviews with 24 education and health professionals
- Interviews with 12 parents
- Interviews with 17 deaf advisors
- Observations of parent-child interaction (7 video sequences)




このプロジェクトは質的なもので、データ収集の手順としては、現在の政策と実践を検討し、24人の教育・医療専門家、12人の保護者・養育者、17人のろう相談員へのインタビューを重ねました。1対1のインタビューやフォーカス・グループの分析も行いましたが、プロジェクトの開始直後にコロナの影響を受けたため方法論をすべて変更し、通常は1対1で

安全な環境下にいる人を使っています。また、これらのインタビューと並行して、子どもと養育者のやりとりを撮影した短いビデオクリップも収集し、コミュニケーション方略やランゲージングの実践についてその一部を調査しました。ここで、私たちの分析方略と、このフレームワークで参照した理論的枠組みの概要を説明します。私たちは、先ほど申し上げたように、立法的な背景を調べ、法律に何が書かれているのか、そしてそれがどのように実践に移されているのかを調べました。このように、私たちはマクロのコンテクストと政策開発のコンテクストを調べ、日々の変化について考え始め、このコンテクストで変化が起こるためには何が必要なのかを考えました。ここがこのプロジェクトの基盤となる重要な部分です。

Data Analysis

- Analysis of policy and practice: gaps and change possibilities
- Thematic analysis of interview data
 - interconnecting systems of influence (ecological theory)
 - issues of agency, power and structure (social theory)
 - resources and precarities
- Multimodal analysis of interactional data
 - Languaging practices
 - Repertoire and resources
 - Visual communication strategies in the presence of asymmetries



インタビューデータの分析では、生態学的アプローチをとりました。幼児期のケアと教育に影響を与えるさまざまな相互関連システムをテーマ別に分析しました。つまり、すでにお話ししたように、まずミクロな影響に注目し、さらに外的な影響、つまりこうした行動や経験に対するマクロな影響に注目したのです。生態系

論は、コンテクストについて説明するのには非常に有効であることがわかりましたが、意思決定のプロセスや、行動や意思決定の原動力を理解するのには十分ではないことに気がつきました。そこで、社会理論を採用して、このコンテクストで親や実践者が持つ主体性（エージェンシー）、特に子どもや親の生活における手話やその他の現地語の使用に対する権力や構造的な影響を理解するために、もう少し踏み込んだ検討をしました。また、先ほども申し上げたように、私たちは、私たちが発展させたいと思うようなリソースと、予測不可能だと思うものに特に注意を向けました。私たちは、インタラクションのデータを、もっとミクロなレベルで、しかもマルチモーダルなコミュニケーション分析という、全く異なる方法で見てみました。子どもたちとその養育者の間にある双方向性について探りました。また、言語だけを分析単位とするのではなく、より身体的な意味生成の方法や意思疎通の方法など、あらゆるコミュニケーション方略を考慮するように努めました。

私たちは、この質的分析を全体の流れに戻し、変化のための文脈的な可能性を考えることが非常に重要だと考えました。つまり、私たちの計画で変化について考える時、責任は養育者ではなく社会や構造にあるのであって、養育者の肩にだけのしかかっているのではないのです。

 **What have we learned from this work?**

New understandings of the macro and micro contexts for early support and intervention in Ghana that are relevant to other countries of the south, and that challenge the established knowledge base:-

- early support and professional (health and education) infrastructure
- the experience of inclusion and exclusion
- constructs of childhood, caregiving practices and expectations
- communication and caregiving resources of family and community
- multilingual social lives and practices of children and families
- societal understandings of deafness and sign language



では、私たちはこの作業から何を学び、何を考えさせられたのでしょうか。全体として、私たちはこの分野で、早期支援と介入のマクロとミクロのコンテクストに関する新しい知見を提供できると思います。これは、ガーナだけでなく、南半球の他の国々にも当てはまることです。そして、こうした知見は、これまで確立された

と見なされてきた知識に疑義を呈するものであると私たちは感じています。そこで、私たちが学んだことを、私たちが学んだことと、私たちに学びをもたらしたものとに分けてみました。そうすることで、ECE の科学、幼児教育の科学と研究分野に還元できると思ったのです。その結果、ガーナのよ

うな状況において、ろう児とその家族に対する早期支援と専門的なインフラがどのように機能するのか、またどのようなリソースが利用できるのかについて、より深い知見を得ることができました。また、こうした背景において子どもたちや養育者にとって包摶と排除がどのような意味を持つかについても、より深く理解することができました。これは、より広い文脈における私たちの理解とは全く異なるものです。特に、子どもたちや家族が互いの言語世界から非常に排除されていることに注目しました。聾学校は他の教育システムから隔離されています。また、移動に時間がかかり、学校では手話と英語が使われていますが、家庭やコミュニティに戻ると2、3ヵ国語が使われているが手話の知識はほとんどない、という状況でした。これは、お互いの生活における包摶と排除という点で、大きな要因となっています。このような文脈から得られる学びには、幼児教育研究の分野では到達できない知識や情報がたくさんあると感じました。社会が幼年期を理解するためのさまざまな方法はもちろんのことです。養育や成長に対するアプローチや期待もさまざまです。私たちは、複合住宅に住むコミュニティでの働き方や、複数の親を持つ子どもたちの世話の仕方、子どもたちがコミュニティや社会の一員となることへのさまざまな期待を目の当たりにし、このことが成長について研究するにあたってフォーカスしてきたことだったのですが、現時点では早期ケア・サポートのモデルから取り残されると強く感じています。もうひとつ、南から北へ伝えられた学びとしては、多言語社会で育つということはどういうことなのか、ということがありました。多言語社会では、家庭内で複数の言語が使われ、そのうち社会でさらに発展するものもあればしないものもあり、正統なものと見なされるものもあれば見なされないものもあります。私たちは、家族や子どもたちをサポートするためには、どのようなリソースがありどのように活用できるかを理解しようとすることが極めて有効であり、ECEの分野にも取り入れていく必要があることがわかりました。

私たちは、手話が共有されていない中で、子どもや家族が独自のコミュニケーション方法を開発して交流のためのシステムをさまざまなやり方で構築していることを学びました。多くの養育者が自分たちが使っている方略について話してくれましたが、彼らはそうした方略について自信がなく、いつも「自分はきちんとした手話を知らない」と言うのです。しかし、子どもとのやりとりの理解を深めるために、言語的または身体的なコミュニケーションやデモンストレーション、身体への接触やアイコンタクトの使用、そして一緒にやってみることなど、さまざまなやり方を用いることを話してくれました。このようなコミュニケーションへのアプローチは、家の中で一緒に仕事をしたり、家事をしたりするときに一緒にいる、というところに重点があります。幼児教育ガイドラインでは、二者間相互作用や、遊びを中心とした親子間相互作用、言語発達を意識的にサポートすることに重点を置いています。こうした点が抜け落ちてしまっています。ですから、幼児教育のガイドラインや計画がより包括的なものになるためには、これらのことを取り入れる必要があると私たちは考えています。

もうひとつの問題は、聴覚障害に対する理解、ろうであることの意味、ろう者としてのさまざまなあり方、コミュニケーションの可能性、そして手話の役割という点で、社会的な障壁が深いということです。話すべきか手話をすべきかどちらか一方であるという非常に対立する主張や、聴覚障害に対する差別、親や家族の懸念や心配、障害を恥と思う気持ちなどにしばしば出くわします。このように深く構造化された価値観や信念というものは私たちにとって非常に扱いにくいものですが、幼児教育のプログラムやアドバイス、サポートを検討する際には、このようなことを意識しておく必要がある

のです。

Implications

The need to improve public awareness and inclusive attitudes to deaf children, and empower those responsible for their growth and wellbeing

- Develop deaf-led intervention and mentoring
- Develop community-based education, and support
- Focus on visual communication: valorise caregiver/family repertoires
- Upskill education and allied health workforce
- Grow professional and research capacity - ensure sustainability

This aspect of the project will be developed in the second half of the talk.



このように、私たちが学んだことは、トップダウン的な意味合いのものもありますが、すぐにでも始められるようなボトムアップ的な行動もあります。私たちが学んだこととしては、社会の意識を高めて、ろう児に対するインクルーシブな態度を醸成する必要があり、そうすることで、彼らの成長とウェルビーイングに責任を持つ人たちをエンパワーすることができるということです。

こうした発展を支えるには、社会的な責任が非常に大きいのですが、私たちにもできることがあります。ひとつは、実際すでに着手したプロジェクトがあります。これについてこれからお話ししたいと思います。ひとつは、幼児教育や支援において、ろう者主導の指導や介入をより多く展開することです。ダニエル・フォビ先生とリチャード・ドクさんは、ガーナで行われたこうした試みについて話してくれることになっています。もうひとつは、家族だけでなく、コミュニティやコミュニティベースのグループ、コミュニティベースの教育と連携して、より多くの人々にアプローチし、ろう児のための手話の役割についてコミュニティの意識を高めることです。

3つ目の方法は、実行も難しくなく、すでにある資源を活用してできるもので、養育者がすでに持っている視覚的コミュニケーション方略やレパートリーを積極的に評価し、それに焦点を当てることです。手話の授業は受けられないかもしれませんし、手話をあまり知らないかもしれません、直感的な視覚的コミュニケーション方略やレパートリーは持っているのですから、そこに光を当て、サポートし、育てていく必要があります。もうひとつは、保護者と一緒に働く人たちや、教師と一緒に働く人たちのスキルアップです。保護者の方々は、専門家に会うことによって彼らから学び、彼らの持つ懸念を内在化し、対立する議論についての考え方を受け取ります。ですから、トレーナーに対する訓練が大切になってくるのです。次の世代の保護者とともに働く次の世代の教師にトレーニングを与えるトレーナーがしっかりと力をつけていることが大切なのです。私たちのプロジェクトでも、このトレーナーの育成を次の課題としています。

最後に、専門的・研究的能力を高めることも重要な役割です。このようなプロジェクトの期間を超えて、専門家集団でのスキルを高め、研究に対する自信と能力を高め、学術界でネットワークを構築し発言する能力を高め、さらにプロジェクトの期間を超えて持続できるようにするのです。先ほど申し上げたように、ろう者主導の介入についての部分は、この講演の後半で展開する予定です。

Impact and Dissemination Activities

- Multilingual video-based support and training materials for caregivers, and (education, health) professionals
- Community and school-based workshops with caregivers and professionals and establishment of parent support groups
- Briefings for education and health policy makers (MoE)
- Conference, seminar, and media presentations
- Publication plan
- Networks and follow-on project development at scale



ここでは私たちの仕事の具体的な成果についていくつか紹介します。その中でも最も重要なものは、この後すぐご紹介するのですが、私たちのチームのろう者アドバイザーが養育者や専門家のために開発した多言語ビデオベースのトレーニング教材で、この分野は私たちがとても楽しみにしており、もっと伸ばしていきたいと思っているのです。私たちがこれまで取

り組んできたもうひとつは、コミュニティに焦点を当てたものです。ガーナのウィネバにあるグループは、学校、学校周辺のコミュニティ、そして専門家や保護者支援グループと協力して養育者に会い、手話や視覚的コミュニケーション方略や活用できるリソースについての認識と理解を深めるために、外に出て活動しています。また、教育省のような影響力のある組織と協力するように努め、研究コミュニティの大学の同僚が教育や保健の政策立案者に向けてブリーフィングを提供することもありました。また、今日もそうですが、国際会議やセミナー、メディアへの発表などにも力を入れています。ガーナではラジオでのプレゼンテーションも行いましたが、これは社会の意識改革のため今後も継続的に行っていく予定です。出版計画もかなりしっかりしています。すでに4本の論文を発表しています。また、オックスフォード大学出版局で共著の本を執筆しています。これにはプロジェクトチーム全体が関わっています。このように、さまざまな相手と学び合う協働的なプロセスを通じて、グループの自信と学術的能力を高めることができます。私たちは、今後もネットワークを発展させていきたいと考えています。ガーナ以外の国ともつながりのあるチャリティ団体と、より多くのネットワークを構築する必要があると認識しています。可能な限り多国籍の団体を選びました。私たちはそこに何かをもたらすことができると考えていますし、私たちの仕事とのつながりを構築することで、私たちの仕事をより遠くまで届け、規模を拡大していくことができます。

Connect with us.....

Twitter
@deaf_education

Publications.

Swanwick, R., Fobi, D., Fobi, J., & Appau, O. (2022). Shaping the early care and education of young deaf children in Ghana. *International Journal of Educational Development*, 91, 102594.

Fobi, D., Swanwick, R., Fobi, J., & Doku, R. (2022) Promoting deaf adults' participation in the early care and education of deaf children in Ghana *Journal of Deaf Studies and Deaf Education* (in press)

Swanwick, R., Fobi, J., & Appau, O. (2022). The multilingual context of early support for deaf children and their caregivers in Ghana *Journal of Multilingual and Multicultural Development* (in press)

Case study [The Power of Visual Communication](https://medium.com/university-of-leeds/the-power-of-visual-communication-119edc88f69e)
<https://medium.com/university-of-leeds/the-power-of-visual-communication-119edc88f69e>

Project website
<https://deafed.leeds.ac.uk/>



発表の次のパートに移る前に、私が申し上げたいのは、私たちは国際的な活動をしたいと思っていること、世界の他の地域で幼児教育と支援がどのようになされているのかもっと知りたいと思っていることです。私たちは、論文もいくつか出版していますので、それに対するフィードバックやコメントをいただければ幸いです。ツイッターのアカウントもありますし、

ケーススタディもありますし、プロジェクトのウェブサイトもあります。明日のパネルチャットの後、あるいは今日この後で、皆さんと会話を続けたいと願っています。



Thank you for your attention

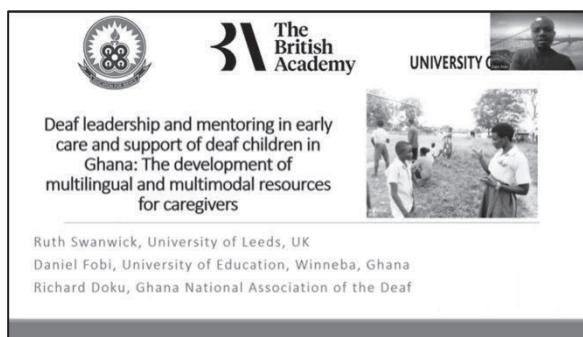
Ruth Swanwick r.a.swanwick@leeds.ac.uk
Dani Fobi d.fobi@leeds.ac.uk
Richie Doku saintdoku1@gmail.com



それでは、この辺で失礼します。ダニエル・フォビ先生とリチャード・ドクさんに交代しますので、ろう者主導の側面について少しお聞きください。私たちのプロジェクトについてのパネルディスカッションと、皆さんの意見、考察、アイディアを聞くことをとても楽しみにしています。ご清聴ありがとうございました。またお会いしましょう。

2. ガーナにおけるろう児とその養育者の早期ケア・支援におけるろう者のリーダーシップとメンタリング：養育者のためのマルチリンガル・マルチモーダル教材の開発

(Daniel Fobi, University of Education, Winneba, Ghana)



皆さん、こんにちは。ガーナのウィネバ教育大学のダニエル・フォビ博士です。ルース・スワンウィック教授、私たちのプレゼンテーションの場を設けてください、また私たちのプロジェクトの主な目的とこれまでに達成できたことについてお話しいただき、ありがとうございます。このプレゼンテーションの私のパートでは、「ガーナにおけるろう児とその養育者の早期ケア・支援におけるろう者のリーダーシップとメンタリング：養育者のためのマルチリンガル・マルチモーダル教材の開発」についてお話しします。



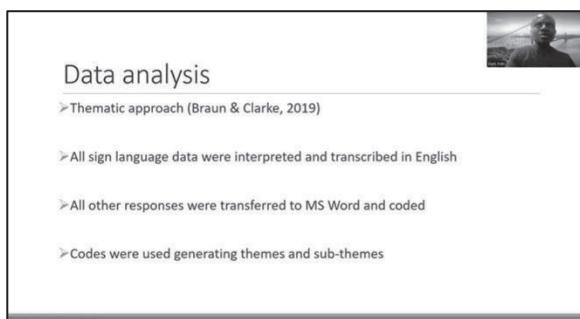
スワンウィック博士が先ほど指摘していたように、私たちはガーナのろう児の教育に注目していました。その際、私たちはガーナのろう者やろう者の指導者と接触し、特にガーナのろう児とその養育者の早期ケア・教育支援における彼らの役割について、彼らがどのような視点を持っているのかにとりわけ興味を持ちました。私たちは、ろう児のインタラクションやコミュニケーション、こうしたコンテクストにおける養育者の支援ニーズ、ろう者が主導する早期教育パートナーシップやコラボレーションの潜在的な役割や性質について、ろう者はどのように考えているのか、知りたかったのです。



私たちが調査を実施したのはコロナの時期と重なり、人々と直接会って交流することは非常に難しい時期でした。しかし、チームとして私たちはやり方を工夫し、バーチャルな形で参加者になってくれそうな人たちと接触しました。ろう児の早期ケア・教育に関するろう者の視点を理解するために、ろう者に接触したのです。私たちのコンテクストでろう者やそのメンバーというと、まずガーナ国立ろう者協会に代表されるグループがあります。この協会はろう者の主要な窓口であり、彼らの役割はガーナのコンテクストにおけるろう者の直面する課題について支援することです。私たちは、ガーナの各地域で役割を担っている人たちに興味がありました。また、ろう者の指導者たち、例えば、教師であるろう者や、さまざまな雇用形態に就いている人たち、建築家や、ガーナのコンテクストにおいて、ガーナの人たちに認められ尊敬されるような人たちです。Facebook

のメッセンジャーーや WhatsApp はガーナのろう者がよく使うソーシャル・メディア・プラットフォームやバーチャル手段のひとつであり、これらのメディアを通じて彼らにコンタクトをとることは難しいことではありませんでした。また、ガーナ国立ろう者協会に連絡をとっていたので、協会がガーナのさまざまな地域にいるろう者のリーダーたちに会えるようサポートしてくれました。そこで、WhatsApp と Facebook のメッセンジャーを通じて 22 人のろう者に呼びかけたところ、17 人が好意的な返事をくれ、私たちの研究に参加する意思を示してくれました。この 17 人のうち、13 人が男性、4 人が女性でした。そのうちの 6 人はガーナ国立ろう者協会の代表で、ガーナのさまざまな地域で活動していました。ガーナには 16 の行政区域があり、ガーナ国立ろう者協会の活動を支援するリーダーたちに声をかけました。その結果、私たちの研究に関心を持って、参加してくれた指導者が 6 人いました。また、11 人のろう者メンターもいました。ガーナのコンテクストにおける彼らの役割と責任についてはすでにご説明した通りです。

バーチャルな環境で研究を進めるため、3 つの選択肢を用意しました。最初の選択肢は、Zoom で私たちとビデオ・インタラクションをしてもらい、私たちがガーナ手話で質問し、参加者がガーナ手話で回答するというものでした。2 つ目の選択肢は、私たちの質問を参加者に送り、参加者は自分自身をビデオに撮って私たちに送りビデオ回答を提供するというものでした。3 つ目の選択肢は、WhatsApp で参加者とチャットをすることで、こちらから質問を投げかけ、参加者は英語で回答を入力するというやり方でした。これらの選択肢のうち、ビデオでの回答を送ってくれた参加者が 3 人、Zoom での対話を選んだ参加者が 1 人、残りの 13 人は WhatsApp のチャットで英語での回答を送ることに同意してくれました。



さて、参加者からこれらのデータを収集した後、分析にあたっては、Braun and Clarke (2019) が推奨するテーマ別アプローチをとりました。手話でのデータについては、通訳をしました。先ほど申し上げたかと思いますが、この研究には、ガーナのコンテクストに精通していて、ガーナ手話を理解し手話で言われていることを英語に通訳できる手話通訳者が参加しています。ま

た、手話に堪能なろう者の研究メンバーがテープ起こしをサポートしてくれました。このように私たちは協力して、ガーナ手話のインタビューを英語に書き起こしました。ガーナ手話データの英語書き起こしとともに、その他の回答はすべてマイクロソフト・ワードに移され、研究チーム全体で、通訳や手話に関するこのコンテクストの知識や経験、背景を活かしてコードを作成し、それをコーディング・ハンドブックにまとめました。このハンドブックを活用して分析に使用したデータからテーマとサブテーマを作り上げていきました。

私たちのデータにおいて中心的なものとしては、私たちのコンテクストの中で、そしてさらにもっと広い社会で、将来的な可能性とろう者のリーダーシップ、そしてろう児の早期ケアと教育に利用可能なトレーニングのインフラ、というものもあります。そして最後に、ろう者と他の実践者との協力について調べました。

す。彼らは、手話、その他の視覚的コミュニケーション、ジェスチャー、スピーチなど、養育者が用いるさまざまな方略について言及していました。そしてその中心にあったのは聴覚障害の確定診断の遅れと、タイムリーな介入とろう児の就学の遅れについての事実だったのです。というのも、出生時、あるいは生後3ヵ月が経っていても、子どもたちの聴覚障害を特定するための明確なインフラ的支援がないからです。そして、こうした子どもたちのほとんどは、介入について検討される前に3歳か4歳の誕生日を迎てしまうのです。

現在のケア実践の下で浮かび上がったテーマのひとつは、「ろう者の参加」でした。私たちの研究の参加者は、ろう児と養育者のコミュニケーションと言語に関わるトレーニングを支援している、と教えてくれました。つまり、彼らはそれぞれの家庭で親や養育者に手を差し伸べ、手話コミュニケーションの基本を学ぶ手助けをしているのです。また、ガーナ国内の人々にろう者やろう文化を理解してもらうため、職場から国全体のレベルまで、さまざまなレベルでアドボカシーの役割を担っているのです。地域の、コミュニティに根ざしたコーディネーターの存在についても強調されました。先ほど述べたように、ガーナには約16の行政区域があります。そのため、これらの地域には、協会やろう者、ろう成人を代表するさまざまなリーダーがおり、彼らは養育者と協力してろう児の養育における実践を支援しています。ろう者として成長し困難を乗り越えて、成功した経験を分かち合う人もいます。こうした経験を共有することで、養育者たちを勇気づけ、子どもたちが将来どのような人間になれるかという、明確な将来の展望を与えたのです。また、養育者を学校や聴覚クリニックなどの施設に紹介し、そこで子どもたちのアセスメントを行ったり、子どもたちが正式な教育を受けられるよ

私たちの研究から浮かび上がったテーマは、ろう児の早期ケア教育における現在の保育実践とろう者主導の支援に焦点を当てたものです。また、言語とコミュニケーションに焦点を当てたテーマもあり、養育者がろう者とどのように関わっているのか、実際に、ろう者がチームとして果たす役割への参加や、活用されている方略やプログラムについて注目しました。また、

現在の養育実践とろう者主導の活動に関しては、2つの中心的な分野がありました。まず言語とコミュニケーションに関して、参加者は視覚的コミュニケーションの重要性を強調しました。というのも、ろう者がさまざまな形の視覚的コミュニケーションに触れることで、養育者とのインタラクションが助けられ、さらに学校に進学した際にも役立つと信じているからで

うに働きかけた参加者もいました。

Current caregiving practices and deaf-leader activities

Strategies and programmes

- Production of sign language resources
- Teaching GhSL to caregivers




参加者たちは、現在の養育における実践やろう者主導の実践に関する方略やプログラムについて述べていました。例えば、他の NGO と協力してガーナ手話を制作している参加者もいました。私たちはガーナ手話辞典を作成し、ほとんどの学校に配布しています。私たちは、この辞典がろう者のための実用的な文書になり、ろう

児の教育において、またその後の教育において言語発達を支える礎になることを願っています。彼らはまた、ガーナ手話を養育者やコミュニティに教えるために、教会やコミュニティ・リーダーと協力してコミュニティや人々に確実に手話が教えられるように働きかけています。

Future potential of deaf leadership

An ECE Training infrastructure

- Education of deaf adults
- Workshops and seminars

Collaboration with other practitioners

- Teachers, interpreters, audiologist, speech therapist, counsellors
- Engagement of NGOs
- Government agencies: social welfare, Ministry of Education; Gender and Children protection
- Societal awareness




ろう者のリーダーシップの将来的な可能性に目を向けると、トレーニングのためのインフラ、他の実践者との協力、という 2 つの明確な問題が浮かび上がってきます。トレーニングのためのインフラに関しては、ろう者がさまざまな学業レベルに到達して、十分な能力、知識、技能を身につけ、次の世代のろう者たちの憧れの存在になっていけるように、成人ろう者の教

育を促進する必要性があることに気づきました。また、こうした教育を受けたろう者は、ろう者の擁護者としての役割も果たすことができるのです。ろう児を産むほとんどの養育者は、何から始めればいいのか何から始めればいいのかがわからない状態にあります。ですから、ろう児の養育や教育に成人のろう者が関わっていけるように、ワークショップやセミナーをもっと開催していく必要があるのです。こうしたワークショップやセミナーが開催されて、ガーナのコミュニティ内の養育者と協力することで、ろう者の問題に対する理解が深まるでしょう。協力という点では、教師、通訳、言語療法士、聴覚士、カウンセラーなどの専門家が協力し、ろう者のリーダーシップがガーナのコンテクストの中で確実に定着し、また早期の教育支援につながることが重要です。また、私たちのコンテクストにおける障害問題を支援する意欲のある非政府機関との関わりを増やす必要があります。政府部門としては、社会福祉、教育省、その他すべての国家機関が、ガーナ国立ろう者協会やろう者指導者と協力し、ろう教育やろう者問題に関する体系的な政策が子どもたちの早期教育を支援するために実施されることを期待しています。そして最も重要なことは、私たちはステигマ（偏見）を前面に押し出されている社会、とくに地方に行くと障害に関わる問題を理解しない人が少なくありませんが、そういうコンテクストに生きているということです。そのため、ろう者のリーダーシップの将来的な可能性を発展させるためには、社会的な意識形成が行われ、ろう者やその他の専門家が地域社会に入って障害者問題について人々を支援し、教育することが必要なのです。

The way forward

- Openness to visual communication
- Recognition of caregiver communication resources
- Development of accessible support materials
- Community-based intervention, education and support
- Professionalization of deaf mentors in ECE
- Centre of Excellence

てオープンな姿勢をとらなくてはならない、ということを言っているのです。つまり、手話に触れたからといって視覚的コミュニケーションが阻害されるわけではないということを人々に認識させ、理解させる必要があるということです。また、先にお示しした私たちのデータにもあったように、養育者が用いる言語、コミュニケーションや方略は十分ではないと考えているろう者もいます。しかし、私たちがチームとして行っていることは、ジェスチャー、手話、音声言葉など、養育者が子どもとのコミュニケーションに使っている既存のリソースを評価し、それを改善し、コミュニケーションをサポートすることです。そのために、私たちはアクセシブルな教材の開発を検討しています。これは、幼児期における言語とコミュニケーションを対象としたもので、人々が日常的に接するものです。この教材によって、それらの語彙が養育者と子どもたちの一部になっていくことをめざしています。

The development of accessible multimodal multilingual support and resource materials

リチャード・ドクさんが私の後に講演し、マルチモーダルでマルチリンガルな支援とリソースについて、さらに光を当ってくれるでしょう。以上が、早期教育における言語とコミュニケーションを発展させるために、私たちがチームとして目標としていることです。

The agency and power of deaf leadership in the Ghana context

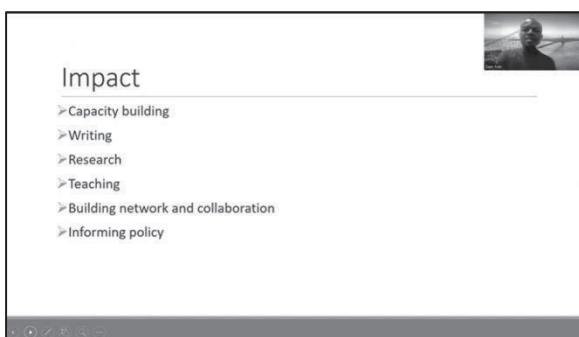
来がどのようなものであるかを明確に理解させるため、私たちにとって大きな後押しとなっています。私たちはまた、ろう者の大人が地域社会に出向いて、さまざまなデリケートな問題に対する意識を高

私たちがチームとしてプロジェクトを進めしていく上では、このコンテクストでは手話か話し言葉のどちらかであって、両方を追求することはできないと人々が考えている、ということを意識しなくてはなりません。子どもたちが手話に触ることで話し言葉の発達が阻害されると考える人たちもいるということです。ですから私たちは、視覚的コミュニケーションに対してオーブンな姿勢をとらなくてはならない、ということを言っているのです。つまり、手話に触れた

また、地域社会に根ざした介入や教育も対象としており、養育者が支援を求めて駆け込むる場所を確保できるよう、地域社会で利用可能な施設を用意する予定です。そして早期養育や教育において、さまざまな職業のさまざまな側面についてろう児にインスピレーションを与えることができるような、ろうのメンターの専門性についても実現をめざしています。私の同僚の

私たちはまた、ろう者のリーダーがさまざまな職業で訓練を受ける必要性があることについても主張しています。例えば、ろう者で弁護士になる訓練を受けた人や、最終学位を取得しガーナの大学で講義をしているろう者もいます。また、学位は取得していないものの、大学で講師を務めているろう者もいます。このことは、ろう者の若い世代を刺激し、自分たちの将

めるとともに地域社会や養育者に子どもたちを支援する方法を教えるという活動も続けています。



Impact

- Capacity building
- Writing
- Research
- Teaching
- Building network and collaboration
- Informing policy

このプロジェクトを通じて私たちが達成したことや与えた影響についてまとめると、チームメンバーの能力を高めることができたといえるでしょう。もともと、私たちは北と南が協力し合うアプローチで活動していたので、北は南から学び、南は北から学ぶことができました。しかし、最も重要なことのひとつは、プロジェクトメンバーに十分な装備を整え、調査や執筆

の能力を高め、こうした訓練を他の人にも伝えてもらうことです。そして、まさにその通りになっています。プロジェクトを開始したチームメンバーは、リサーチ・スキル、さらには他のメンバーとの協力関係やネットワーキング・スキルという点で、このプロジェクトが自分たちに与えた影響を実感していると述べています。文章を書くという点は、私たちがプロジェクトを開始したとき、プロジェクトリーダーのスワンウィック教授が何度も念を押していました。『書き留める』ことの重要性はほとんどすべての会議で繰り返され、私たちメンバーに浸透しています。プロジェクトメンバーは今では書いて自分の考えを共有することに対して自信をつけていますし、これが能力の育成においてとても重要なことです。というのも、書けば書くほど、自分たちがやってきたことにより多くの人がアクセスし、それについて読み、結果として自分たちの影響力が増すものだからです。

研究という点では、私自身はもともと幼児期の研究にはあまり関心がありませんでした。というのも、これまでの研究はすべて高等教育や中等教育が中心だったからです。このプロジェクトに携わるようになって、幼児期から始めることがの重要性について理解するようになりました。土台がぐらぐらではその上に建つ建物は欠陥だらけになるからです。ガーナのコンテクストでは私たちはチームとして一般の人たちに理解してもらえるよう活動しています。ガーナの大学や私たちのネットワークの中で、私たちが訓練する学生たちは、早期教育やろう者のリーダーシップ、メンターシップに関心を持ち、コミュニケーションにおけるマルチモーダル・アプローチにも関心を持つようになっています。彼らが今書いている論文のテーマはすべて、幼児期にそのように能力を発達させることはできるかという点について、マルチモーダルなコミュニケーションについて、そしてろう者のリーダーシップについてです。そしてこのことは、私たちの教え方を一変させました。なぜなら、私たちは今や、研究に基づいた教え方、エビデンスに基づいた教え方をしており、先に述べたように、私たちが信じていることを実践し、それを私たちが訓練する生徒たちに伝えているからです。私たちはこの研究を通して、ネットワークと協力関係を築き、それをガーナやヨーロッパの枠を超えて広げていかなければなりません。ですから、私たちの研究に興味を持って、私たちと一緒に仕事をしたいと思ってくれる人なら、誰とでももっと大きなコラボレーションができるようオーブンにし、より大きな協力関係を築くことに前向きです。私たちは、いくつかの会議やセミナーで発表してきましたし、この会議で皆さんにお話しできることをうれしく思っています。

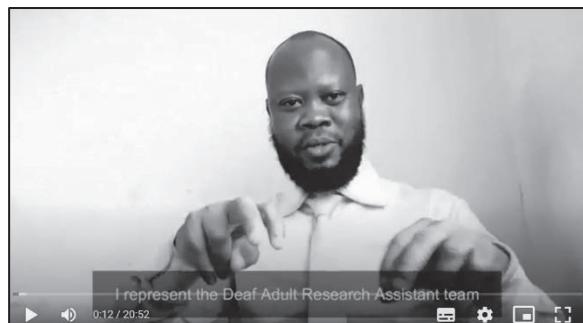
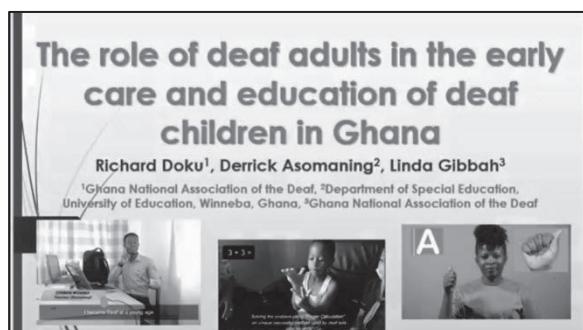
政策への情報提供という点では、私たちは早くから、このプロジェクトを通じてろう者やろう教育の訓練を受けている人たちのことを訴えてきました。最近、ガーナでは、雇用の問題が重要な課題となっています。そこで、技術教育や職業教育に人々を雇用する門戸が開かれたのです。私はチームの

一員として、手話の訓練を受けた人々をこれらの施設に参加させる必要性を教育省に指摘しました。彼らは私に手を差し伸べてくれ、私たちは政府の技術教育訓練部門に40人以上を採用させることができました。これは今まででは考えられないことです。私たちが着手したプロジェクトを通じて、こうしたことがすべて私たちのコンテクストの中で起こっているのです。そして最も重要なことは、このプロジェクトが政策や実践に役立っているということです。このプロジェクトによってろう者に対する考え方方が変わり、ろう教育や早期ケアの擁護者になったということを、多くの人々が言っています。

次にリチャード・ドクさんに、このプロジェクトチームで開発した教材について話してもらいます。ありがとうございました。

3. ろう児とその養育者の早期ケアと教育における役割

(Richard Doku, Ghana National Association of the Deaf)



こんにちは、私の名前はリチャードです。この研究に取り組んでいるろう成人チームを代表してお話しします。チームには3人います。1人目はウィネバ教育大学の学生であるデリック・アソマニング、次にガーナ全国ろう者協会 (Ghana National Association of the Deaf: GNAD) で働くリンダ・ギバ、そして同じくGNADで働く私です。これから「ろう児とその養育者の早期ケアと教育における役割」という発表をします。私たちは、養育者のためのマルチモーダルでマルチリンガルな教材を一緒に開発しています。

私たちは以下の分野に焦点を当てています。まず言語とコミュニケーション。2つ目はろうに対する認識です。3つ目は評価と教育、4つ

目はろう者のメンター制度とリーダーシップです。

これらの分野は、主調査（ガーナにおけるろう児とその養育者の早期ケアと教育）から得られた、養育者とその子どもの実態についての知見に基づいています。

私たちの教材は、このような養育者とそのろう児の状況に基づいており、英語字幕、ガーナ手話 (Ghanaian Sign Language: GhSL)、ナレーションで利用できるように開発されており、音声言語としてはトゥイ語（ガーナの現地語）と英語で利用できます。

養育者のリソースは、10本のビデオと、ビデオのガイドとなるハンドブック1冊で構成されています。10本のビデオのうち3本は大人のろう者のドキュメンタリービデオで、自らの経験をその中で共有してくれています。2つ目は、ろうの子どもと親が交流している2本のビデオです。3つ目に、5本のガーナ手話(GhSL)の単語についてのビデオです。その内容はガーナ手話の単語とアルファベッ

トを手話でどう表すかを示したビデオで、これは親が手話を覚えて子どもとの基本的なコミュニケーションスキルを身につける際のサポートとなるように作ったものです。

これら 10 本のビデオはすべて、多言語で作られたものです。手話あり、トワイ語あり、英語ナレーションもあります。

ろう者のドキュメンタリー。このドキュメンタリービデオでは、ろう者のメンターが、ろう者であること、教育、職業についての経験を語っています。これらのメンターは、ろう児が高等教育やコミュニケーションを達成するのをどのように支援しているか、また、どのように家族、両親、養育者がろう児の早期教育を支えるかについていろいろなアイディアを提供しています。

また親子のやりとりを見せるビデオもあります。このビデオでは、家族がどのように日常の活動を行なうかを示しています。例えば食事の時間、入浴の時間、テレビを見る時間、そしてろう児の言語能力を促進するための学習の時間などです。我々は視覚的なコミュニケーションが含まれるようにしました。例えば、ガーナ手話では、手、ジェスチャー、表情、触ること、トントンと触れることや、指さしなどを使って表現します。また、物を使った会話もあります。

次は語彙のビデオです。我々は、ガーナ手話と指文字のスキルを家族が身につけられるようにガーナ手話でビデオを作りました。例えば、A-M-A (Ama- 現地語の名前) のような名前をどのように指文字で表現するかについてです。また、このビデオは、ろう者の就学前の幼児が小学校に通う前にガーナ手話のアルファベットを習得できるように開発しました。この語彙ビデオは「家族や家庭で使われる概念」のためのもので、ビデオは、核家族と拡大家族の両方が使えるように、食べものに関する語彙、家庭に関する語彙、基本的な挨拶のガーナ手話の単語を示しています。これらのビデオは、養育者、特に親が家庭でろう児とコミュニケーションをとるのを助けるために開発されました。「教育、健康、行動の概念」に関する語彙ビデオ。このビデオではまず学校に関連する単語がでてきます。ろう児の学習を支えるため、特に子どもが家で宿題をする際に家族がろう児とコミュニケーションをとるのを助けられるように作られています。2 つ目は、健康の概念のビデオです。養育者がろう児と健康に関するいろいろなことについて話すのを助けるために開発されました。例えば、ろう児が腹痛などの健康に関する基本的なことからを養育者に告げることができるよう。また「気分が悪いの?」といった基本的な質問に答えることができるよう。さらに、病院での病気の様子の聞き取りの際に、医師が子どもから重要な健康情報を得るのを養育者が助けることができるよう。3 つ目は、活動に関する概念です。これは、ろう児に特定の活動をさせるために養育者がろう児に指示できるように考案されたものです。

養育者のためのハンドブック。このハンドブックはビデオの手引書としての役割を果たし、次の内容をカバーしています。つまり、養育者用のビデオリソースについて、視覚的コミュニケーションの方略について、ろうについての認識（定義、識別、原因など）についてです。

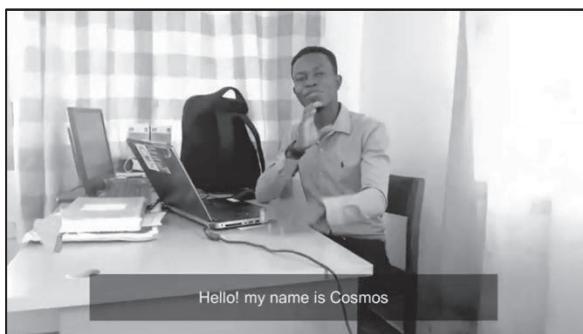
ガーナには聴力評価センターもあります。どこにこうしたセンターがあるのか、という情報もここにあります。教育上の選択肢については、ガーナのろう学校はどこにあり、養育者とそのろう児のニーズに合った学校をどう選べばよいのかという情報もあります。

ガーナにおけるろう者メンターとリーダーシップの促進。ガーナでは、ろうの成人のリーダーシップや指導制度は、国会議員や上院議員などの高い地位にあるろう者のメンターがいる他の先進国に比べると、まだまだ萌芽期に過ぎません。しかし、ガーナにはさまざまな経験を持つろう者がいます。

職種についていえば、ろう者の教師、ろう者の看護師、ろう者の検査技師などがあります。教育面では、法学学士、医学博士、哲学修士、哲学博士などの優れた学歴を持つ人は少数ですがいます。これらのろうの成人はろう児とその養育者にとってロールモデルです。将来のビジョン。私たちは、ガーナにろう者のメンターとリーダーのクラブを設立したいと考えています。これらのろう者のメンターは、ろう児の養育者にアドバイスを提供し、自分の経験を分かち合うことができます。また、ろう児に自分の経験を伝え、教育の選択肢や技能に応じた職業を選ぶ際のガイダンスを提供し、モチベーションも与えることができます。

結論として、このプロジェクトは私たち（3人のろう成人研究アシスタント）自身が感謝すべき経験を与えてくれました。ろう者として、私たちはろう者とその子どもたちだけでなく、臨床医やろう学校の教師、その他ろう児と密接に関わる他の人々にも役立つと思われる方法で教材を開発することができました。ありがとうございました。

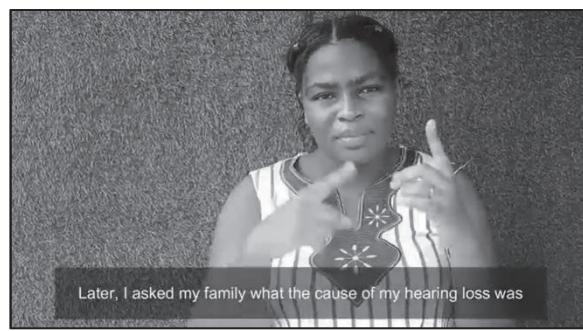
このビデオでは、あるろう者が自分のろう、教育、職業についての経験を語っています。また、言語、コミュニケーション、そして幼いろう児の教育という重要な問題についてもコメントしています。ろう児の将来について、いまだに否定的な感情を抱いている親や養育者がいることには驚かされます。このビデオや他の成人ろう者のドキュメンタリービデオは、養育者が否定的な感情を取り除くのに役立つでしょう。彼らはろう児の将来に対して前向きな考え方を持ち、ろう児を支えるようになるでしょう。では、このビデオをご覧ください。



Hello! my name is Cosmos

こんにちは、私はコスマスと申します。ろう児のためのデモンストレーション学校で教師として働いています。私は幼い頃に耳が聞こえなくなりました。11歳半の時です。ですので、今ろう者として21年くらいを過ごしました。私はろう者として良いレベルの教育を受けました。初等教育の後、マンボン・アクワピムのろう高等学校に通いました。そこから教育大学に

進み、初等教育の学士号を取得しました。その後、大学で学士号を取得し、さらに修士号を取得しました。教師としての実務経験は10年以上になります。

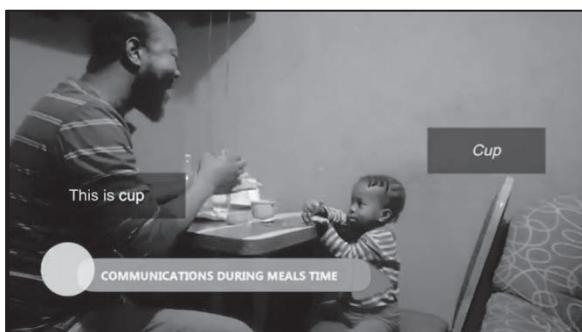


私の名前はメアリー・セイピーです。中学から高校までマンボン・アクワピムのろう学校に通いました。高校卒業後、私の成績は良くありませんでした。英語の単位が取れなかったのです。英語の単位取得のために個人授業を受け、合格しました。しばらく家にいた後、フラワーデコレーションを学ぶことにしました。フラワーデコレーションスクールを卒業した後、ア

クラにあるナツツフォード大学でガーナ手話（GhSL）を勉強しました。子どもたちに手話を教えることができるよう、GhSLの修了証をもらって卒業しました。私は生まれつき耳が聞こえないのだと

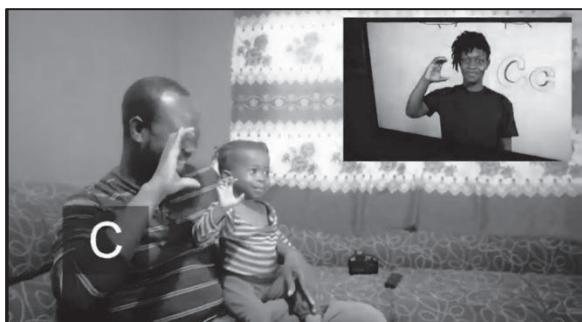
思っていました。その後、家族に聴力を失った原因は何かと尋ねました。家族は、原因はわからないが、私は生まれた時には耳が聞こえていて、後に耳が聞こえなくなったのだと言いました。私の仕事はフラワーデコレーションです。フラワーデコレーションを1年間学び、さらに3ヶ月の研修を受けました。フラワー装飾の仕事の依頼があれば、その仕事に行き、家に帰ります。

【父と娘の対話】このビデオは、ろうの父親と聴の娘の会話についてのものです。父親はろうで、多言語を話します。彼の娘は2歳半で、第1保育所に通っています。ビデオの長さは約5分です。私たちは、養育者が毎日、日々の決まった活動の中でろう児と意味のあるやりとりをすることで、ろう児とのコミュニケーションを促進し、ろう児の全般的な発達も促すことができると考えています。ビデオをご覧ください。



まず、食事中のコミュニケーションから始めましょう。これはスプーンです。お父さんが子どもにスプーン、コップの手話を教えています。これは水です。子どもはママのことを尋ね、父親は「ママは出かけたよ」と答えました。父親が子どもに飲み物を出します。

食後のコミュニケーションに移りましょう。このビデオと他のビデオは、ガーナ国立ろう者協会(GNAD)が制作したもので、現在、ろう児を持つ家族でテスト中です。父親が子どもにアルファベットを教えます。A、B、C、D。父親が子どもに、Dの正しい手の形を教える。「扇風機」、「扇風機」、「腕」、「腕」、「これが腕。わかる?」「目」、「目」、「目」。



お風呂の時間のコミュニケーションです。

「お風呂の時間だよ」「あれ、猫」「いや、いや、お父さんはお風呂に入ろうって言ったんだよ」。「あれ、猫」と子どもが言います。「そうだね」、父は答えます。「猫、猫」「お風呂の時間だよ、いいかい?」父親が子どもに言いました。父と子は風呂場に移動します。



このビデオでは、核家族と拡大家族といった家族に関する単語について話しています。また、挨拶だけでなく、食べ物や家庭に関する言葉も含まれています。

このビデオは、特に養育者が家庭でろう児とコミュニケーションをとる際に役立つと私たちは思っています。これらの語彙の手話を上達させるには、ろう児や聴の家族、近くに住むろう

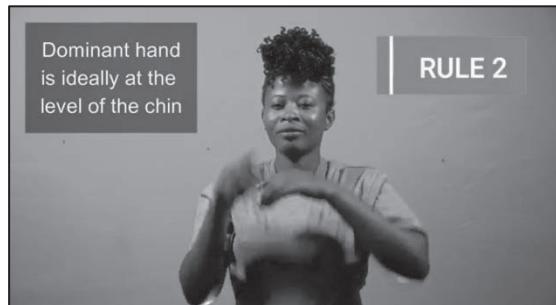
者とよく練習する必要があります。ビデオをご覧ください。

【家族と家庭の概念】兄弟、姉妹、母親、父親、おじさん、おばさん、子ども、息子、娘、赤ちゃん、

【食べ物の概念】パン、お茶、スープ、パンケー、フフ、米、砂糖

【家の概念】部屋、洗濯、水、石鹼、風呂、タオル

【挨拶】おはようございます、こんにちは、こんばんは、おやすみなさい



【GhSL のアルファベット】

このビデオはガーナ手話（GhSL）の A、B、C、D...Z の手話を示しています。GhSL には手話単語を持たない単語がたくさんあるので、GhSL のアルファベットを学ぶことはとても重要です。そのため、GhSL のアルファベットを知ると、単語を正しく指で綴ることができます。ろう者の養育者として、GhSL のアルファベットを

知っておくことは必要です。英語のアルファベットの音を知っているのと同じです。そうすることで、家庭でろう児と簡単な会話ができるようになります。ビデオをご覧ください。GhSL のアルファベットです。

【指文字のルール】

ルール 1. 指文字中に手をふらふら動かさないこと。

ルール 2. 利き手はあごの高さが理想。

ルール 3. もしあなたが初心者なら、指文字は急がずにゆっくり綴ること。

ルール 4. 正しい手の形と向きを身につけること。

ガーナ手話のアルファベットです。

A, B, C, D, E, F, G, H, I, J, K, L, M, N, O, P, Q, R, S, T, U, V, W, X, Y, Z.